

議題

企業会計基準委員会の最近の活動状況

1. 前回基準諮問会議(第 24 回、2015 年 7 月 13 日開催)後の企業会計基準委員会(ASBJ)の活動状況は次のとおりである。

1. 日本基準の開発

1. 現在開発中のテーマ

税効果会計に関する検討状況

2. 2014 年 2 月より、日本公認会計士協会で作成されている税効果会計に関連する実務指針について、ASBJ に移管すべく税効果会計専門委員会において審議を行い、平成 27 年 5 月 26 日に企業会計基準適用指針公開草案第 54 号「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針(案)」(以下「回収可能性適用指針案」という。)を公表している。公開草案に対するコメントを 7 月 27 日に締切り、合計 22 通のコメントが寄せられた。現在、公開草案に寄せられたコメントを分析し、最終基準化に向けた検討を行っている(詳細については、別紙 1 を参照のこと)。

また、日本公認会計士協会における税効果会計に関連する実務指針のうち回収可能性適用指針案に含まれないものの移管に係る審議の過程で、税効果会計に適用する税率については 2016 年 3 月期から適用できるように開発すべきというニーズに対応するため、適用指針を別途開発する方向で検討を行っている。

これらは 2013 年 12 月 12 日に開催された第 277 回企業会計基準委員会において、基準諮問会議より ASBJ に新規テーマの提言がなされたテーマである。

ASR 取引に関する検討状況

3. 2015 年 2 月より、一括取得型による自社株式取得取引(ASR(Accelerated Share Repurchase)取引)に関する会計処理について、実務対応専門委員会において審議を行っている。

現在、日本証券業協会の参考人から示された日本版 ASR 取引スキームに基づき、会計上の論点を分析している。

これは、2014 年 12 月 1 日に開催された第 301 回企業会計基準委員会において、基準諮問会議より ASBJ に新規テーマの提言がなされたものである。

権利確定条件付きで従業員等に有償で発行される新株予約権の企業における会計処理に関する検討状況

4. 2015 年 10 月より、権利確定条件付きで従業員等に有償で発行される新株予約権の企業における会計処理について、実務対応専門委員会において審議を行っている。

これは、2014 年 12 月 1 日に開催された第 301 回企業会計基準委員会において、基準諮問会議より ASBJ に新規テーマの提言がなされたものである。

収益認識基準に関する検討状況

5. 2015年5月より、IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」を踏まえた収益認識基準の開発に向けた検討について、収益認識専門委員会において審議を開始している。現在、IFRS第15号適用上の課題を把握するための意見募集の公表に向けた検討を行っている（詳細については、別紙2を参照のこと。）。

2. 今後、検討を行う予定のテーマ

6. 以下については、基準諮問会議より新規テーマとしての提言を受けており、今後、検討を行う予定である。
 - 連結納税制度と企業結合に関する税効果会計の整合性
これは、2013年3月29日に開催された第261回企業会計基準委員会において、基準諮問会議よりASBJに新規テーマの提言がなされたものである。今後、税効果会計専門委員会で検討を行う予定である。
 - 「企業結合に関する会計基準」に係る条件付取得対価の取扱い
これは、2013年12月12日に開催された第277回企業会計基準委員会において、基準諮問会議よりASBJに新規テーマの提言がなされたものである（優先度が低いものとして提言されている。）。
 - 実務対応報告第18号の見直し
これは、本年3月26日に公表した改正実務対応報告第18号において、「IFRS第9号における、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本性金融商品への投資の公正価値の変動におけるノンリサイクリング処理等を修正項目として追加するか否かについて、今後、検討を行う予定である。」とされたものである。今後、実務対応専門委員会で検討を行う予定である。

II. 修正国際基準

7. 2015年6月30日の「修正国際基準（国際会計基準と企業会計基準委員会による修正会計基準によって構成される会計基準）」の公表時に公表した『修正国際基準（国際会計基準と企業会計基準委員会による修正会計基準によって構成される会計基準）』の公表にあたって」における記載に基づき、現在、2013年12月31日現在でIASBにより公表されている会計基準等のエンドースメント手続を開始している。

III. IFRS 適用課題対応専門委員会の設置

8. IFRS 解釈指針委員会の議論の適時なフォローと、我が国におけるIFRSの適用上の課題に関する議論（必要に応じて）について検討を行うことを目的として、2015年8月26日に開催された第318回企業会計基準委員会において、IFRS適用課題対

応専門委員会を設置することが承認された（詳細については、別紙3を参照のこと。）。

2015年11月10日に、第1回専門委員会を開催している。

IV. 国際対応

1. 国際的な意見発信

9. 国際的な意見発信については、3か月おきに開催される会計基準アドバイザー・フォーラム（ASAF）を中心に行っており、前回の基準諮問会議以後、2015年7月及び9月に開催されたASAF会議に参加している。
10. また、IASBの「財務報告に関する概念フレームワーク」で記述される可能性のある認識に関する国際的な議論に貢献するため、ショート・ペーパー・シリーズ第2号「概念フレームワークにおける認識規準」の草案を検討している。

2. 他の国及び地域との連携

(1) 会計基準設定主体国際フォーラム（IFASS）会議への参加

11. 各国の会計基準設定主体による会計基準設定主体国際フォーラム（International Forum of Accounting Standard Setters：略称IFASS）会議が2015年9月29日及び30日に、ロンドンにて開催され、当委員会も同会議に出席した。

(2) 世界会計基準設定主体（WSS）会議への参加

12. IASBと各国の会計基準設定主体による世界会計基準設定主体（WSS）会議が2015年9月28日及び29日にロンドンにて開催され、当委員会も同会議に出席した。

(3) アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ（AOSSG）中間会議への参加

13. アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ（AOSSG）の中間会議が2015年9月27日にロンドンにて開催され、当委員会も同会議に出席した。

(4) その他

14. 米国、欧州等の会計基準設定主体と、2015年10月14日及び15日にトロントにて意見交換を行っている。

3. IASBによるアウトリーチへの協力

15. 2015年10月7日及び8日にIASBのAnne McGeachinテクニカルプリンシパルが来日され、概念フレームワークに関するアウトリーチが行われた。来日に際して、当

資料(2)

委員会は、IASB 関係者と意見交換を行ったほか、当該アウトリーチの協力を行っている。

以 上